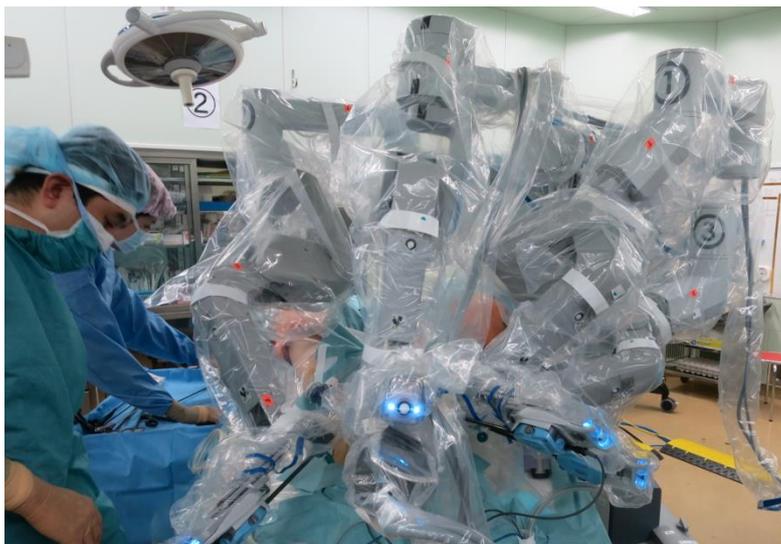


からだに優しい広汎子宮全摘術（ロボット「ダ・ヴィンチ」支援広汎子宮全摘術）

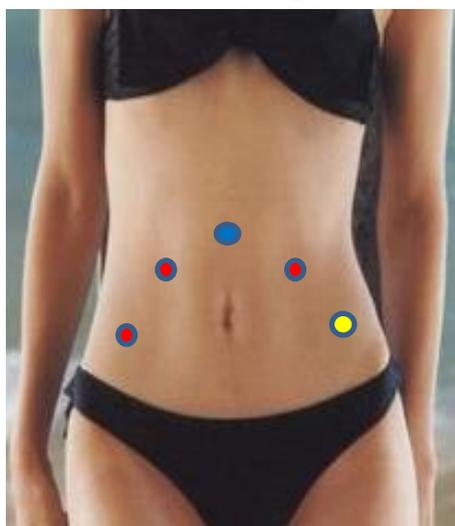


当科では2014年7月より、臨床研究として手術ロボット「ダ・ヴィンチ」を使用した子宮摘出手術を開始し、現在まで31名の患者さん（広汎子宮全摘術は25名の患者さん）に行っております。単に傷が小さい手術を目指すのではなく、術後の患者さんが長期に渡り抱えなければならない手術後遺症（排尿障害/腸閉塞/リンパ系の合併症など）を軽減したいと考え導入にいたしました

従来の開腹広汎子宮全摘術



ロボット(ダビンチ)支援広汎子宮全摘術



- :ダビンチカメラ(12mm) ● :ダビンチ鉗子(8mm)
- アシスト鉗子(12mm) 腹腔鏡操作用

手術時間は5-6時間程度で従来の開腹手術と同等です。以前行っていた腹腔鏡下広汎子宮全摘術と比較すると60%程度まで短縮できており、長時間手術/麻酔の患者さんへの負担軽減に加えて手術スタッフの負担も軽減できる有用な医療用ロボットとの印象を持ちます。入院期間も術後1週間程度、自己導尿を指導して退院となりますが、平均すると退院後2週間程度で自己導尿から卒業可能で、術後2か月程度でほぼ術前と変わらない状態まで排尿機能も回復します。最初に転移するリンパ節（センチネルリンパ節）を同定しながら手術を行っており、リンパ系の合併症（リンパ浮腫/リンパ嚢胞）の発生もなく、腸閉塞を含めた術後後遺症の発生も認めておりません。現時点での導入成績は満足する状況で広汎子宮全摘術の20%程度をロボット手術で行っています。経験症例数も国内では有数となり東日本では東京医大病院に次ぐ実績となっています。今後も慎重に実績を積み重ねて行きた

いと考えています。

スタッフ（チームラファエロ）

岡元一平（ロボット外科学会専門医/婦人科腫瘍学会専門医/産婦人科学会専門医）、

藤堂幸治（ロボット外科学会専門医/婦人科腫瘍学会専門医/産婦人科学会専門医）、

山崎博之（産婦人科学会専門医）

の3名が既定の規定カリキュラムでの研修を終了し、院内の倫理委員会/ロボット手術術者認定会議の承認を得て実施しています。

手術（入院）費用

ロボット「ダ・ヴィンチ」を用いた婦人科手術は保険診療とはなっておりません（現在、泌尿器科における前立腺手術/腎部分切除のみが健康保険の適応です。）。ロボット支援広汎子宮全摘術は国内の大学病院を中心とした数施設で先進医療 B（臨床研究）として保険収載に向けての準備が進んでおります。2-3年後をめどに保険診療となることが予想されています。それまでの間は自費診療（入院費を含めて150万円程度）となりますが、患者さんの個人負担を軽減するため、入院+手術費の約7割を病院が負担することとして患者さんには約3割の40万円程度を負担していただくことにしております。臨床データ（手術時間/出血量/入院期間/排尿状態など）は適切に解析させていただき学会報告や論文作成に加え、将来の保険収載や施設認定などに利用させていただきます。

手術希望の患者さん/主治医の先生へ

ロボット支援手術希望の患者さんは、現在の主治医の先生とよく相談していただき紹介状を作成していただき、地域医療連携室経由で「ロボット手術希望とコメントをいただき」受診予約をいただければ比較的スムーズに対応できると思います。病状を慎重に検討し術式や費用などを説明し手術日などを決めさせていただきます。（従来の開腹手術を薦めることもあります。）